**第8回韓日未来フォーラム報告書**

法政大学社会学部社会学科

4年 中澤友里

　今回のフォーラムで私は「日韓教育」について討論した。人々の思考、そして政治にも影響しているともいえる教育について、日韓の違いはどこにあるのか、どのような教育が行われれば日韓関係は改善される可能性があるのかを3つの提案を通して考えた。

　まず1つめは「日韓共同の歴史博物館の建設」だ。これは日本と韓国の両国に同様の博物館を建設することで、両国の人々が日韓の歴史や問題に向き合う機会をつくることができるというものである。どのような事実があったのかを展示するとともに、その事実を体験した方々の意見なども合わせて展示することで、さまざまな視点でその問題をとらえ、考えることができるようにする。そして意見を書いて共有することのできるスペースをつくることで来館者が問題に対する考えをタイムリーにアウトプットすることができ、また多くの考えを共有することができるようにする。

　2つめは「日韓共同教科書の作成」である。討論を通して韓国の歴史教育には日本との歴史が多く登場するようで日韓関係の歴史について時間をかけて学んでいるとのことであった。それに対して日本はどうだろうか。同じチームの日本の学生が、教科書のうちの2、３ページでしか韓国との歴史についてはなかったような気がすると発言をしていた。私自身の記憶も同じくそのようであるし、比較してみると、韓国の学生のほうが日韓の歴史について高校生の同じ学年で比較した場合に大きな差がうまれるのは確かなようだ。その差をうめるにも日韓合同で歴史教科書を作成するのは意味があるはずだ。ただその際に日本では「日韓併合」であるものが韓国では「侵略」となるようにそれぞれの国での表現の違いなどが存在したり、現代史のパートではいまだ解決されておらずどちらかの国の意見が大きく反映されてしまったりする恐れがあるが、それについては協議を重ね事実としておこっていることをしっかりと掲載すること、そしていまだ解決されていないものには両国がそれぞれどのような考えを持っているかを掲載することで、その問題の理解を図るなどの工夫を行うのが最適であろうとなった。実際に2014年に日中韓による合同教科書は作成されていたが、それは日本において使用された事例はないとのことだった。それについての対策として、資料集としての配布や図書館に置くということがあげられた。

3つめは「日韓の学生の交流の場を増やす」というものだ。学生とされているが、これは小中高時代に交流することも含まれた提案である。むしろその経験は早くから行われたほうがいいだろう。例えば日韓の高校の姉妹校制度がもっと積極的に締結され、修学旅行などでお互いの国を訪問し交流する場があれば、隣国の同世代への関心を早くから持つことができ、日韓問題について考える人が増えるのではないだろうか。また問題を考えるまでに至らなくても交流したことのある、楽しい時間を共に過ごした人がいる国という認識があればお互いについてポジティブな面をもつ人がいるという状況を作り出すことができる。そしていざ講義などで日韓問題に触れるときにも良い作用を生み出すのではないだろうか。

これらの3つが実現すれば、私たちの「意識改革」が実現され、世論の考えにもっと多様性がうまれ。それが政府の問題解決につながるのではないかと考えた。

討論以外で、慰安婦についての講演も良い時間であり、貴重な機会であった。いままで慰安婦問題についての講義はうけたことがなく、この問題に対してはなんとなくニュースでみたり、ネットで意見をみたりという偏ったものであったと思う。しかしこの問題は日韓関係をみていくうえではやはり重要な点であり、それは韓国に到着した日の空港からの電車内の画面で日韓慰安婦問題がとりあげられているのをみたときにも改めて感じた。講演をとおして考えたことはまず慰安婦として被害にあわれた方々はやはり心に大きな傷を負っているということだ。日本軍が探しにくるから部屋にいてくれ。という発言をする方がいたという話から、長い月日が経過したとしても大きな恐怖というものは決して消えることはないということなのだと思った。ハルモニの方々が高齢化していき、この事実を伝承していく人口が少なくなっているというのは、日本の戦争経験者や被爆者が高齢化して、それらの事実が風化される危険性があるのと同様に、決して風化させてはいけないし、繰り返されてはならない。今回の講義を通じて私もそれを知ることのできた一人として伝えていくという義務が少なからずあるのであろうと思う。

また自身にとって衝撃的であったのはある発表の質問の時間に韓国の学生が「竹島の問題はすでに解決していることであって、本来なら議論の必要はない」というようなコメントがあったことだ。領土問題はいまだ解決していないものであると考えていたが、勉強などを通してこのように考えている人もいるのだということがわかった。私はそのような問題の存在は知りつつもそれにたいして根拠をつけて意見することはもちろんできず、自身の問題に対する考えの浅さを痛感した機会であった。

　今回のフォーラムに参加して、日韓問題についてじっくりと考えることのできた良い機会になったと共に、やはりこれらの問題はもちろん簡単に解決することは難しく、どちらが完全に正しい、間違っている、ということはなく、一体正解はなんなだろうかとわからなくなってくる。ただそのように考えをめぐらす、意見を交わすという場がミリ単位であっても双方の歩み寄り、そして解決の方向に進んでいるのだろう。

　また日韓の学生が食事や音楽を通して時間を共有することができたことはとても良いものだった。お互い関心がある人々が集まったということもあるだろうが、やはり主体的に考えて行動している人々が双方にいる限り、この問題は良い方向に解決していくことができるであろう。

＜韓国料理を囲みながら交流を深めることができた。＞

　　　　　